

# 令和4年度放射線安全取扱部会年次大会 (第63回放射線管理研修会) アンケート調査のまとめ

令和4年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

令和4年10月13日(木)、14日(金)の2日間にわたり、令和4年度放射線安全取扱部会年次大会がオンラインで開催された。年次大会実行委員会では、参加者の動向を把握し、今後の部会活動や大会運営の充実を図るため毎年アンケート調査を実施している。今回は、オンライン大会であることから紙媒体ではなく、大会ホームページからアンケートに回答していただく形となり、参加証はアンケートページからの申し込みとした。参加登録者274名のうち107名から回答を得た(回答率39.1%)。その結果を以下報告する。

## 1 年次大会について

今大会の各イベント運営(構成、開催の時期、会場等)への満足度についての5段階評価(5:満足、4:やや満足、3:普通、2:やや不満足、1:不満足)及び大会への意見やコメントの記載をお願いした。

図1に各イベント等に対する評価点(平均点)と参加者数を、図2に各評価の回答数を示す。本報告作成者がアンケートフォームを作成したのだが、単純なミスからシンポジウム3が質問項目から抜けており、満足度が作成できなかった。シンポジウム3については、「シンポジウム3では、大規模施設・小規模施設それぞれのDXについてご紹介いただき、大変参考になりました。」との意見も寄せられており、アンケートで評価されなかったことについて、発表者の皆様および関係者の皆様にお詫び申し上げる次第である。

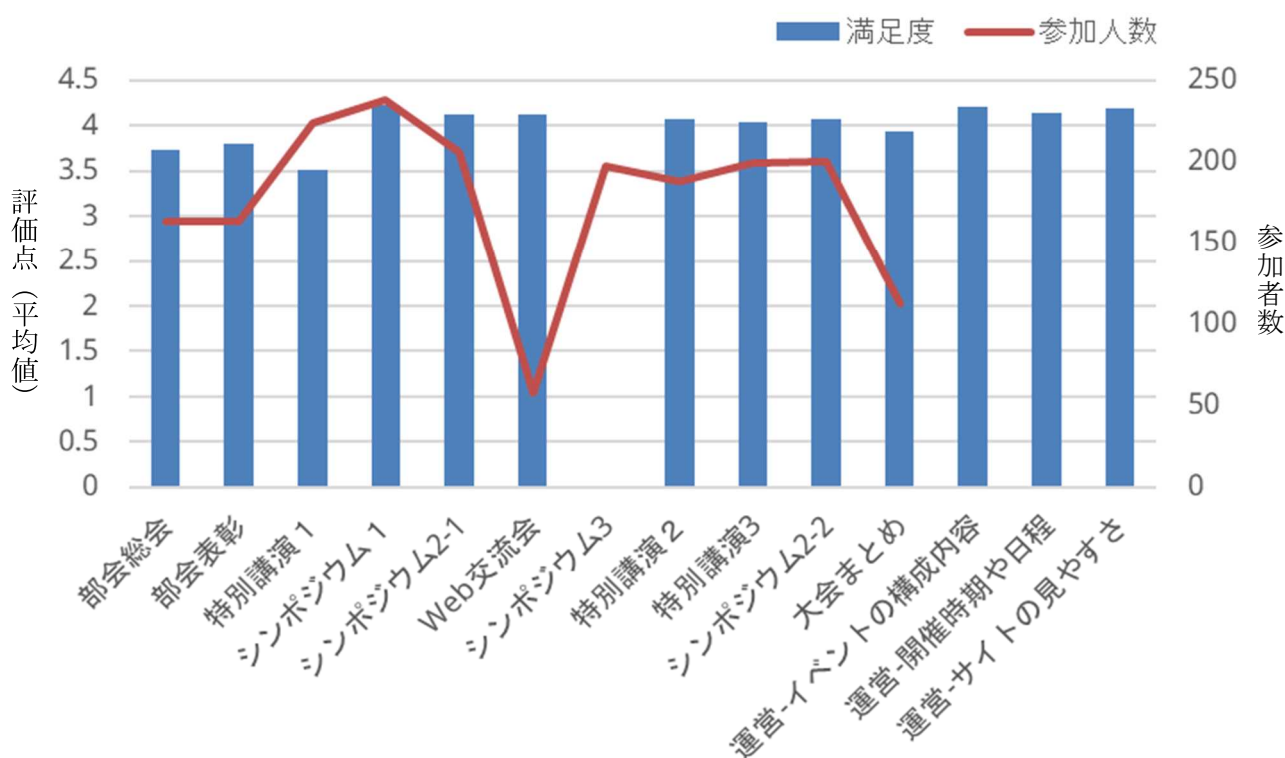


図1 各イベント・運営の評価点と参加人数

評価点は、各イベント、運営で、3.5～4.2の範囲であり、おおむね全項目でやや満足いただいた様である。参加者数は、1日目最初の部会総会及び2日目の大会まとめて若干減少し、Web交流会では4分の1程度に減少した。評価としては、堅調であったがWeb交流会への参加については課題を残した可能性がある。今回は、シンポジウム2は2つのグループに分けたポスター発表でありかつ口頭発表となった。前年度に続いて情報発信の場所としての位置づけは評価されている。一方、相談コーナーは、Web上で限定参加するというブレイクアウトルームとして開設し、高く評価いただいたが、「ご指導いただいた先生のご発言中にブレイクアウトルームが強制終了してしまったのが少々残念」とのコメントをいただいたように、大会の進行上、ブレイクアウトルームを強制終了するプログラムにしたが、運営方法については今後の検討材料となった。機器展示、書籍コーナーは設定していない。交流会は、オンラインで開催し、参加者は他のイベントに比べて少なかったが、アンケートでの評価点では4.1で「交流会も工夫されていて楽しませていただきました」とのコメントもいただき比較的高い評価をいただいたが、「交流会は他の参加者と交流してこそ意味を感じます」等、観光案内などの要素よりも、ブレイクアウトルームなどでの交流を充実させてほしいとの意見をいただいた。要旨集は、ホームページから各自ダウンロードしていただいた。

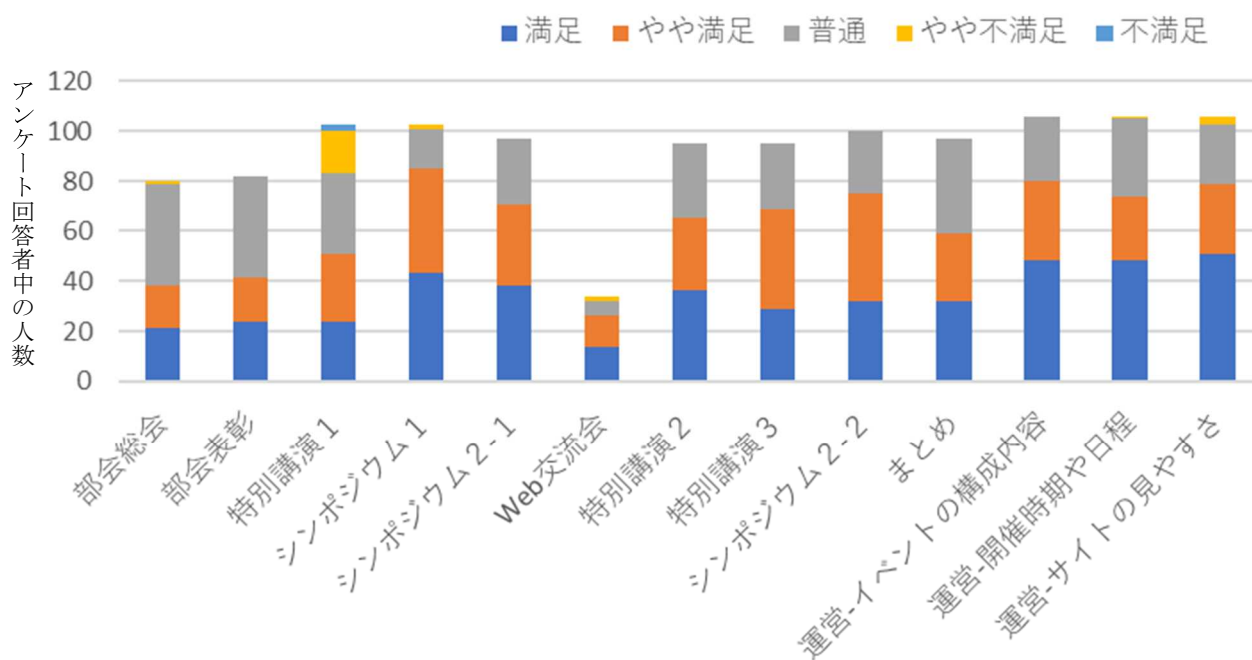


図2 各イベントの評価内訳

構成内容について、評価点の平均は4.2で、「講演、シンポジウムのテーマの選択が良く、勉強になりました」とのコメントがあり、一定の評価をいただいている。また、「オンライン開催はじつはありがたいです」、「Web開催であったため、気軽に参加できてよかった」、「Zoom開催ですと授業や旅費を気にせず参加できるので、大変ありがたいです」等のWeb開催継続を求めるコメントがアンケート回答者の中では多くあった。また、今回実施したオンデマンド配信については、「オンデマンドでもう一度見直すことができるのがよい」、「オンデマンド配信は大変ありがたい」等概ね好評で、今後も継続を求める意見

が寄せられた。「来年こそは対面開催を！」とコメントいただいたように、対面開催での交流を求める意見はあったが、「現地開催と並行して、リモート開催を希望します」とコメントいただいたように、利便性からオンライン配信の継続を含める声も次回大会でも考慮する必要がある。一方、Web会場の進行については、オンライン特有の不具合等（音声不良、映像不良）が発生し、また、開催側の進行の問題で「マイクやカメラがONのままの参加者が長時間放置されている」などのトラブルもあり、ご迷惑をかけた。運営担当者は、何度も運営シナリオを見直し、綿密な予行演習を行ったが、200人以上の参加者が接続する開催環境は予行演習できず、視聴上の問題がところどころ発生した。ネットワークの環境については大きな改善は予想されないため、一部のトラブルについては、参加者、運営担当ともに慣れていき、発表内容や質問についてある程度のネットワーク環境の中で活用していく姿勢が求められると思われる。参加費の振込については、アンケート項目を設定しなかったが、特にコメントをいただかず、スムーズに運営されたものと考えられる。開催時期・日程、ウェブサイトの見やすさについては評価点がそれぞれ4.1および4.2であり、評価をいただいている。

## 2 放射線安全取扱部会の活動について

### 2-1 興味のあるテーマ

アンケートでの「Q17 興味のあるテーマについてお聞かせください」の質問に回答いただいたものを図3に示した。最も多かったのは例年通り「教育訓練」、次いで「緊急時の対応」であった。以下、「設備・機器の品質管理」、「記帳・記録」、「安全管理状況の点検」、「廃棄物処理」が関心の高いテーマとして続いた。項目は選択肢からの回答であり、選ばれた内容については、本年度の特別講演とシンポジウムの内容が若干影響した可能性がある。オンラインでの投票形式のアンケートであったため、じっくりと記入することがなかった事も考えられる。

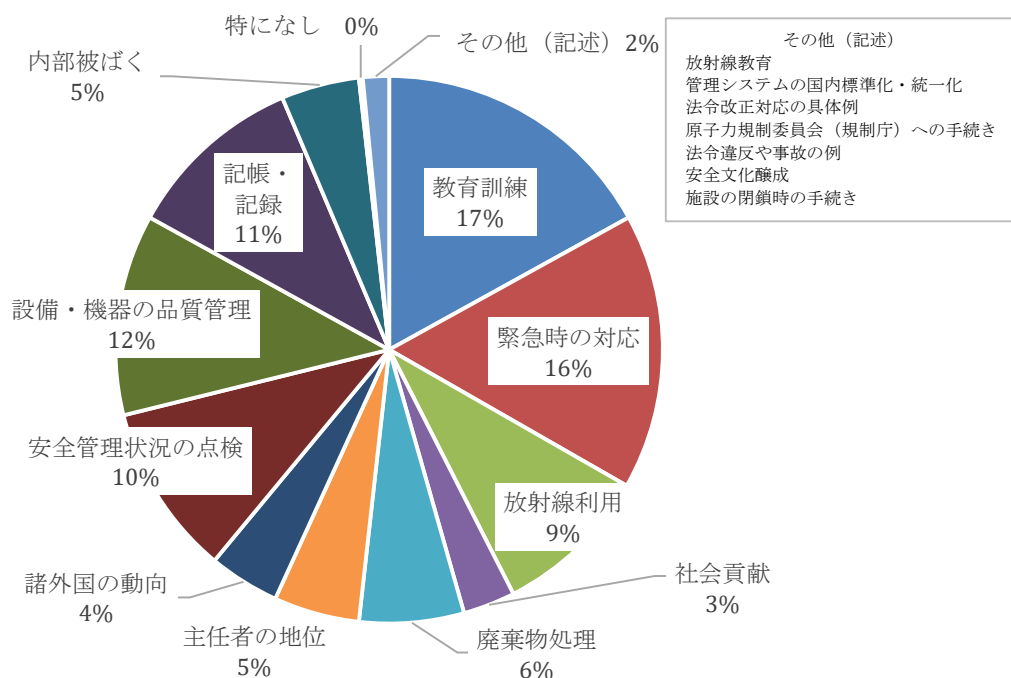


図3 興味のあるテーマ

## 2-2 部会活動全般について

「Q18 支部にやってほしい活動」について図 4 に掲載する。研修会（講習会）と見学会の要望が大きかったことは、部会員の「常に新しいことを学んでいきたい」との要望を示していることが考えられる。

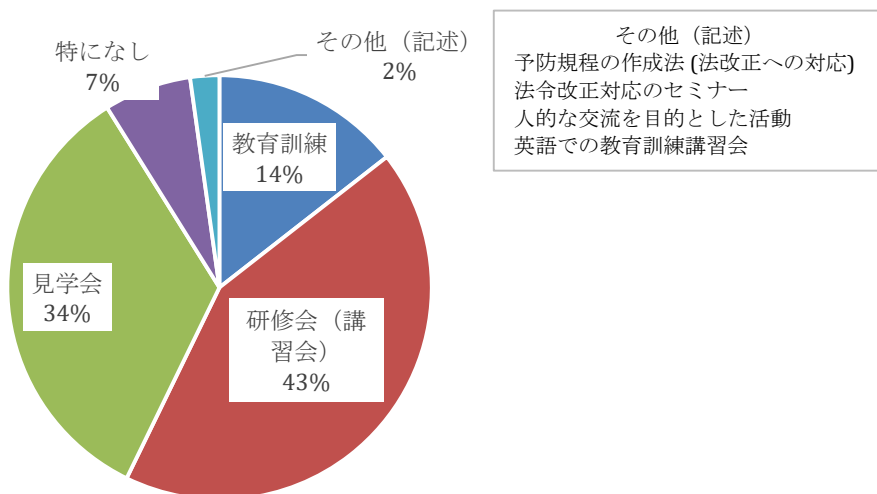


図 4 支部に要望する活動

## 3 参加者について

### 3-1 年齢構成

20 歳代 4%、30 歳代 18%、40 歳代 26%、50 歳代 36%、60 歳代以上 16%であり、50 歳代以上が 50%以上を占める（図 5）。

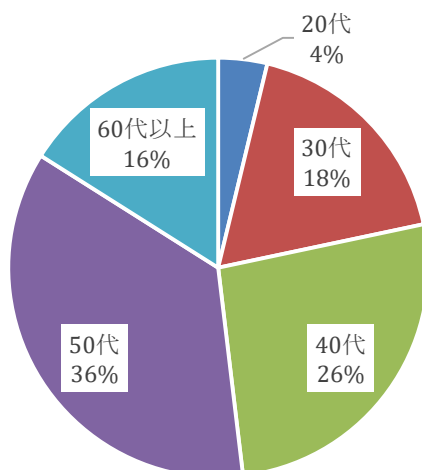


図 5 参加者の年齢構成

### 3-2 所有免状、身分について

複数回答は加算して集計している。身分は、一般職 36%、教育研究職 28%、管理職 13%、放射線技師 13%、医療従事者 5%などであった（図 6）。所有免状は、第 1 種放射線取扱主任者が 77%で大半を占める。以下、なしが 11%、第 2 種放射線取扱主任者 5%であった（図 7）。また、日本アイソトープ協会会員は 63%（図 8）、放射線安全取扱部会会員は 76%であった。

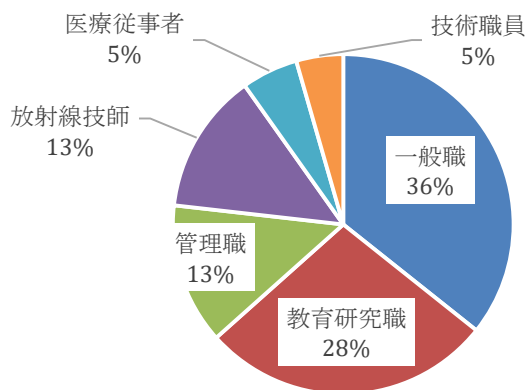


図 6 参加者の身分

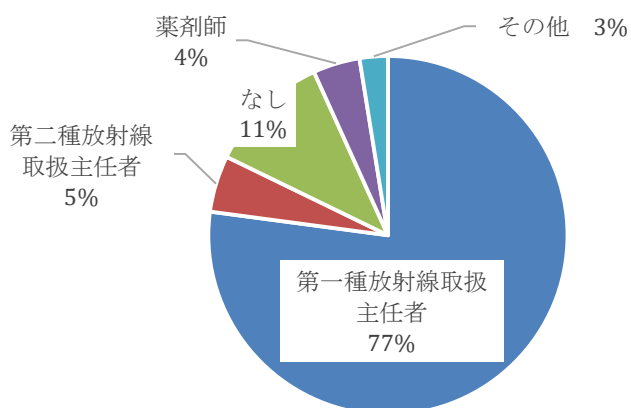


図 7 参加者の免状・資格

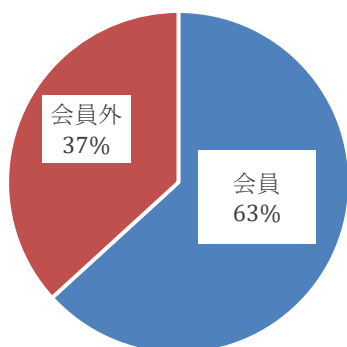


図 8 参加者のうちのアイソトープ協会会員

### 3-3 参加頻度

参加頻度については、毎年参加が47%、時々が25%、初めてが25%であった（図9）。

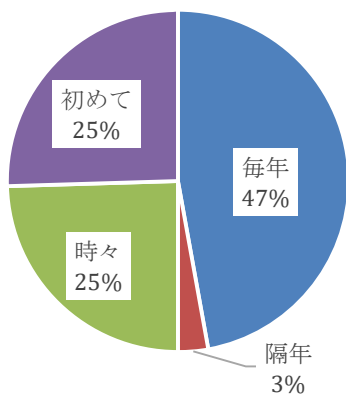


図9 参加者の参加頻度

## 4 参加者の所属事業所について

### 4-1 事業内容

教育機関が48%、民間企業が22%、医療機関が14%、研究機関が11%などであった（図10）。

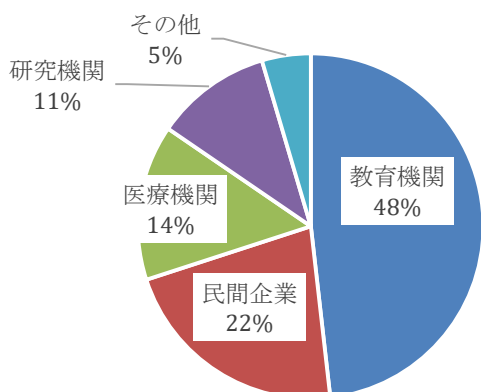


図10 参加者の所属する事業所の事業内容

### 4-2 使用形態

許可使用が91%で大部分を占めた（図11）。

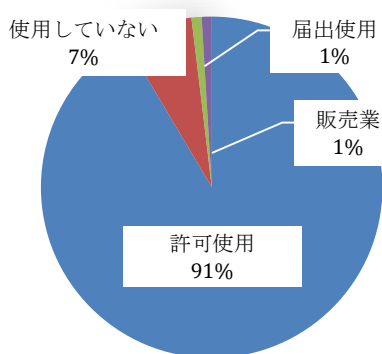


図11 参加者の所属する施設の使用形態

#### 4-3 施設

複数回答は加算している。非密封が62%、密封が10%、放射線発生装置が20%、使用していないとの回答が8%などであった（図12）。

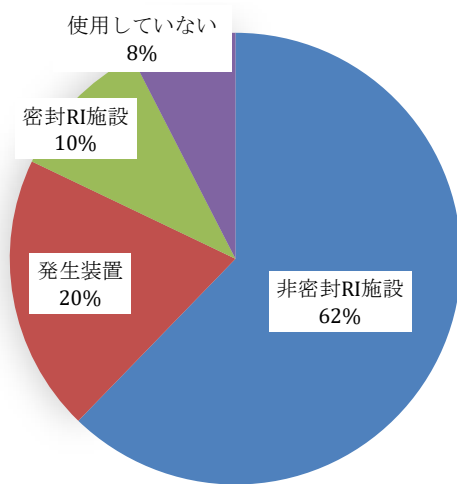


図12 参加者の所属する施設

#### 4-4 所在地

北海道7%、東北10%、関東27%、中部15%、近畿17%、中国・四国12%、九州12%であった（図13）。

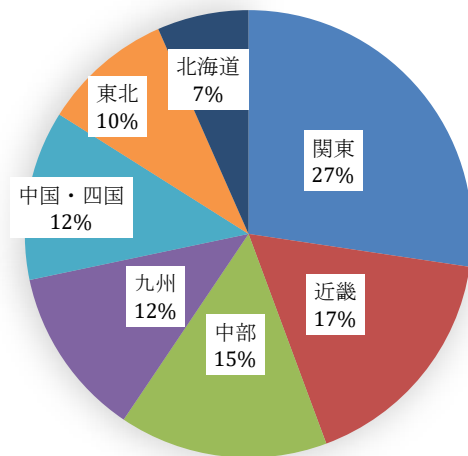


図13 参加者の所属する事業所の所在地

#### 4-5 放射線業務従事者数

20人以下が35.5%、20～100人が35.5%、100～300人が19%、300人以上が10%であった(図14)。

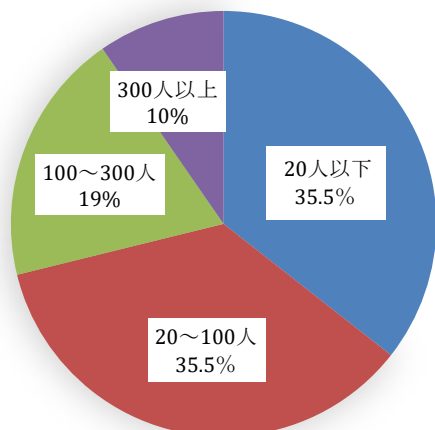


図14 参加者の所属する事業所の放射線業務従事者数

#### 4-6 選任主任者数

1人が47%、2人が30%で、以下3人、4人などで、設置していないとの回答が6%あった(図15)。

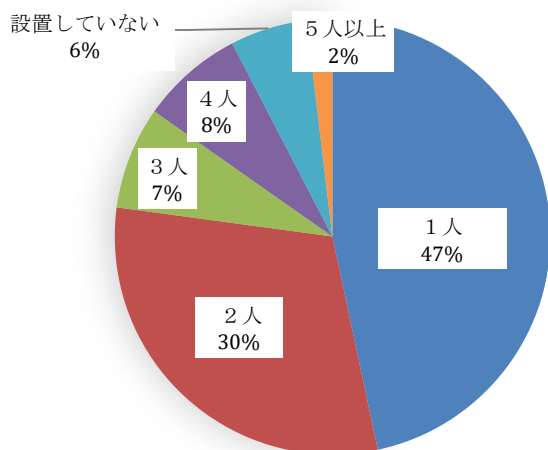


図15 参加者が所属する施設の選任主任者数

#### おわりに

今回の年次大会は、北海道支部が担当し、札幌市での開催となる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症まん延が前年から継続しておりオンライン大会となりました。テーマを「こんな今だから..主任者は安全管理を見直す」とし、新型コロナウイルスの出現や前世紀に戻ったかのような世界情勢のなかで、放射線安全管理を見直し、いかに向上させるか、教育に加えICTから人、設備に至る様々なレベルでの効率化と堅牢さをめざす大会としたいとの思いで開催しました。アンケート結果では、企画内容についてはおおむね好評で、特別講演、シンポジウムの講演者の方々には感謝申し上げます。また参加者の皆さんには、日頃の安全管理の参考にしていただければ幸いです。末筆になりましたが、大会にご参加いただいた皆様、アンケートにご回答いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。(遠藤大二)